

# すずむし

第 1 1 7 号

1980年12月

倉敷昆虫同好会

## “すずむし” 投 稿 規 定

1. 報文の原稿は次のような体裁にする。

- (イ) 用紙は400字詰横書原稿用紙を用いる。
- (ロ) 記述は表題、著者名、現住所、本文、要約、文献の順序とする。
- (ハ) 動植物の和名は片仮名で書き、学名は Papilio xuthus LINNÉ のように下線をひく。Data の記載は次のように略記する。  
2 ♀, 1 ♂, Aug. 26, 1966 または, 2 ♀, 1 ♂, 26. VIII. 1966など。
- (ニ) 読点は (., : “ ”)などを用い、句読点および括弧は各一字にとる。
- (ホ) 文献は本文に引用したものに限り、著者名のアルファベット順に並べて下記のような形式で記す。

大野正男 (1966) 広島県のハムシ相. すずむし, 16(1): 1—11.

MOTSCHULSKY, V (1856) Homopteres in insectes des Indes orientales, et de contrees analogues. Etud Ent. 8 : 25—118.

2. 報文は簡潔に記すこと、原稿は返却しない。

3. 別刷は著者の負担で調整できる。原稿1頁欄外に必要部数を明記すること。

4. 原稿の送付は下記宛とする。

〒710 岡山県倉敷市幸町 重井病院内

倉敷昆虫同好会

# す す む し

No. 117

Dec., 1980

## アカネキスジトラカミキリ *Cyrtoclytus monticallisus* KOMIYA の生態について

黒 田 祐 一

(〒700 岡山市中央町3の6)

本種は小宮次郎氏<sup>1)</sup>により記載されたもので、本州からトラカミキリの新種が出た事と、最初の発見が先例のない材からなされたと言う事で注目を浴びているカミキリムシである。しかしその生態についての報告は未だない。筆者は本種を飼育し、その生態の一端を知る事が出来たのでここに概要（幼虫・蛹の形態については近く発表の予定）を報告し、諸兄の参考に供したい。

本文に入るに先立ち情報を提供された出雲善浩、那須 敏、渡辺昭彦、山地 治氏にお礼を申し上げる。

### 資 料

昭和54年4月28日と5月13日に生きた本種の成虫がエゾエノキ *Celtis jessoensis* KOIDZ. の枯枝より得られている事<sup>2)</sup>より越冬はどの様な形態で行われているのであろうか、又出来れば成熟幼虫、蛹入手したいと思い昭和55年3月30日に高鉢山を訪れた。この時既に降雪の為に目的の木は倒れていた。枝先は見事に切り取られていたが、直接真近かに見てみると未だ食痕のある部分が一部残っており、それを採取して持ち帰った。材は高さ33cm、径23cmの缶に入れて、北側の屋外に置き、適当な間隔で削り、生長の経過を見た。

### 飼 育 経 過

3月30日……幼虫

5月13日……幼虫

5月18日……幼虫が木を噛っている音が聞こえる。

7月6日……蛹室より成虫(1♀), 蛹(5♀♀♀♀) [3頭標本に、他は7月18日、20日に夫々羽化], 前蛹(3♀♀♀) [2頭7日に蛹化, 22日に羽化, も

う 1頭は10日に蛹化, 24日に羽化], 幼虫 (3) [標本にする]

7月7日……蛹 (1♂) [7月22日に羽化]

7月31日……蛹 (2♀♀) [8月8日に羽化], 幼虫 (1)

8月8日……蛹 (1♂) [8月17日に羽化], 前蛹 (1♂) [8月11日に蛹化, 8月28日に羽化]

8月9日……蛹 (1♂) [途中で斃死]

8月14日……前蛹 (1♂) [8月17日に蛹化, 9月2日に羽化]

8月15日……成虫 (6♂♀) [内1頭は羽化直後の個体], 蛹(4♀♀) [8月17日と20日に羽化, 内1頭は途中で斃死]

8月21日……羽化間もない成虫 (2♀♀), 蛹 (1♀) [8月28日に羽化]

8月30日……成虫 (1♀), 幼虫 (2)

9月14日……成虫 (3♂♀♀)

9月27日……成虫 (1♂)

10月6日……成虫 (4♂♀♀)

7月6日に得た成虫を始めとして、その後の個体は全てカプセルの中で静止したまま10月31日現在生存中である。又10月6日に得た個体は飼育ケースに材と一緒に放置しているが、1頭4日目に斃死した他は、時々移動するが大抵材の下面又はケース蓋の隅に静止した状態で居る。

以上より7月初旬に既に蛹室で羽化している個体もあるが、概ね8月中旬を界としてそれ以前は蛹、前蛹、幼虫が、それ以後は成虫の見られる率が高くなる。

### 加害部及び蛹室

加害木は根廻り2m、高さ10数mある殆んど枯れた大木で、筆者の観察では枝の径7cm位の所より先の部分を加害して居る。坑道は樹皮下及び材部に見られ、黄粉をかためた様な木屑でかたく詰められる。蛹室は材部表面より5~8mmの深さで、坑道の中に径5~6mm、長さ18~35mmの部屋をつくり、一端より羽化脱出用の坑道を材部表面下1~1.5mmの所迄（その部の径3~4mm）設け、木屑を詰める。蛹室の両端は半球状で、蛹は頭部を脱出口の方に向け位置する。

### 習性

野外に於ける初めての観察が藤田<sup>3)</sup>、那須・山地<sup>4)</sup>により報告されているが、これらより本種成虫は5月初旬より6月初めにかけて野外に於て見られ、交尾、産卵を行う。孵化した幼虫は若令期に樹皮下を食害し、成長が進むにつれ材部を他のトラカミキリ（ニイジマトラ、キイロトラ）の様に食害する。1年目は幼虫で越冬し、翌年6月下旬より9月にかけて蛹化、14~17日間の蛹期をへて羽化し、そのまま2年目の冬を蛹室で過し、翌年5月に脱出するものと思われる。

この習性は蛹の形態が似た同属のキスジトラカミキリの6~7月に成虫が出現する前に

蛹期をもつのに反し、蛹の形態が全く異なるアカネトラカミキリが1年目は幼虫で越冬し、翌年8、9月に蛹化し、13日間の蛹期をへて羽化し、そのまま蛹室にて2年目を越冬し、翌年4月頃脱出する習性と非常によく似ているのは興味深い事である。

又本種は羽化間もない時期には腹部の膨隆が著明で、翅の両側に腹部背面の白い部分が見られ、正常化するのに1ヶ月近くかかる。これは積雪地帯に於て成虫で越冬する為に栄養分を十分に貯えていると想像されるが、同じ場所で同じ習性をもつアカネトラカミキリが羽化後正常化するのに1週間程しか要しないのは何故だろう。これも興味ある事である。

### 参考文献

- 1) 小宮次郎 (1980) : 鳥取県におけるトラカミキリ族の1新種. ELYTRA 7(2). pp. 33, 34.
  - 2) 那須 敏・山地 治 (1979) : 高鉢山(鳥取県)のカミキリムシ追加報告 III. すずむし No. 116. pp. 43~45.
  - 3) 藤田 宏 (1980) : 鳥取県高鉢山のアカネキスジトラカミキリ. 月刊むし No. 113 pp. 2~6.
  - 4) 那須 敏・山地 治 (1980) : 高鉢山(鳥取県)のカミキリムシ追加報告 IV. すずむし No. 117. pp. 13~15.
- 

### 岡山県未記録のハムシ

今坂 正一

(〒855 島原市白土町1064)

岡山県の昆虫(1978, 倉敷昆虫館発行)には、ハムシ科甲虫が、和名により、123種記録されている。この和名は大野(1971), 日本産ハムシ科名彙に従って、使用されている。

筆者は、岡山在住の山地治、渡辺昭彦、分島徹人の3氏より、多数のハムシを恵んでいたのでおり、3氏の御厚意に報いる意味からも、そのデータを記録しておきたいと思う。なお、上記文献以外、目を通してないので、上記表題は、「岡山県の昆虫に載っていないハムシ」ということで理解していただければ幸いである。上記3氏に心より厚くお礼申し上げる。

1. *Zeugophora (Pedrillia) annulata* (Baly) ワモンナガハムシ  
津山市黒沢山 lex. 18. IV. 1971 山地採集.
  2. *Donacia (Cyphogaster) provostii* Fairmaire イネネクイハムシ
- 

[すずむし, 第117号, 3~4頁, 1980年12月]

- 倉敷市庄 lex. 11. VII. 1969 渡辺採集、燈火。
3. *Lema adamsii* Baly キベリクビボソハムシ  
総社市槻 1 ex. 21. VI. 1970 山地採集。  
暖地に見られる種であるが少ない。
4. *Lema coronata coronata* Baly トゲアシクビボソハムシ  
岡山市高松 1 ♂ 1 ♀. 14. V. 1974 山地採集。
5. *Lilioceris (Bradyceris) lewisi* (Jacoby) ルイスクビナガハムシ  
上齊原三ヶ上 lex. 18. V. 1974 山地採集。  
本州、四国から記録されているが、中部、関東を除くと、ほとんど、日本海沿岸地方に見られる種で、岡山の記録は、ほぼ西限ではないかと思う。少ない種である。
6. *Lilioceris (Lilioceris) parvicollis* (Baly) ホソクビナガハムシ  
御津郡本宮山 lex. 12. V. 1974 山地採集。
7. *Adiscus lewisi* (Baly) タマツツハムシ  
倉敷市庄 2 exs. 27. VI. 1971 渡辺採集。
8. *Cryptocephalus fortunatus* Baly キアシルリツツハムシ  
総社市槻 1 ex. 21. VI. 1970 山地採集。
9. *Chlamisus lewisi* (Baly) ツバキコブハムシ  
岡山市高松 lex. 5. V. 1974 今坂採集。
10. *Chrysochus chinensis* Baly オオサルハムシ  
英田郡福本 lex. 18. VI. 1972 山地採集。  
本州、九州で記録されているが、珍らしい種で産地も少ない。中国北部が原産地で、シベリア、朝鮮等に分布する大陸系のハムシのようである。
11. *Nodina chalcosoma* Baly ドウガネヒメサルハムシ  
倉敷市庄 2 exs. 15. VI. 1969 渡辺採集。
12. *Demotina decorata* Baly チビカサハラハムシ  
倉敷市庄 lex. 5. VI. 1969 渡辺採集。
13. *Chrysolina exanthematica* (Wiedemann) ハッカハムシ  
岡山市津島 lex. 19. X. 1969 山地採集。
14. *Clerotilia flavomarginata* Jacoby キアシヒゲナガアオハムシ  
高梁市大沢 lex. 15. VII. 1970 山地採集。
15. *Stenoluperus cyaneus* (Baly) ルリウスバハムシ  
高梁市臥牛山 lex. 18. V. 1972 今坂採集。
16. *Aphthona strigosa* Baly サメハダツブノミハムシ  
高梁市臥牛山 lex. 4. IV. 1971 渡辺採集。
17. *Altica cyanea* (Weber) カミナリハムシ  
倉敷市庄 lex. 1—30. IV. 1972 渡辺採集。  
以上の他に、岡山市高松において、*Cryptocephalus difformis* Jacoby も得られているが、本種については、別に詳しく報告する予定であるので、割愛しておく。

# 岡山県のナガサキアゲハについて

難波通孝

(〒709-08 岡山市東平島1595-87)

## 1.はじめに

*Papilio memnon thunbergii* von SIEBOLD, 1824ナガサキアゲハについて県内での最初の報告は、1951年9月18日の山川東平氏による目撃記録であることが、すずむし、Vol. 10, No. 1 : 6に、近藤光宏氏により詳しく記されている。<sup>1)</sup>また、同氏により、すずむし、Vol. 12, No. 3 : 27には、三宅宗夫氏の記録が報じられている。<sup>2)</sup>これが、県内で最初の採集記録である。その後、1972年になり、成虫の記録とともに西島真也氏の生態に関する報告がある。この中では、飼育記録をはじめとし、成虫の習性と周年経過が記され、年3化であることが報じられている。<sup>3)</sup>そして1975年になり近藤光宏氏によって、玉島地区でのナガサキアゲハとして多くの記録が報告された。<sup>4)</sup>その後1975年に筆者の岡山市矢津<sup>5)</sup>そして尾塔順三氏により倉敷市内における春型の目撃2例がある。<sup>6)</sup>1977年に入り風早保男氏により、越冬蛹の発見と、越冬について報じられるにいたった。<sup>7)</sup>また同年赤枝一弘氏による西大寺での報告がある。<sup>8)</sup>そして1978年には尾塔順三氏により県中部の久米南町での目撃記録がある。<sup>9)</sup>筆者は1978年より本種の県内における分布と越冬について興味をもち調査してきた。その一部はすでに、すずむし、第115号に岡山県産蝶類に関する知見として報告している。<sup>10)</sup>それ以後は、1979年10月より1980年12月までの生態観察により、越冬蛹の蛹化場所、およびかなりの範囲における越冬の事実と、本種がよく好む食樹として、数種類がかなり明確に把握できたので、今までに知り得たことと、今後に対する課題を記録しておく。

本文に先だち、これらの調査に日頃から多大の協力をいただいている玉野市番田の吉田嘉男氏と、久米南町の岸清己氏には深く感謝いたします。また食樹の同定について労をわざらわした岡山県教育センターの光畠之彦先生には厚くお礼申し上げます。なお、提供していただいたデータには、その後に氏名を記し、引用したデータには、その後に引用文献の番号を付した。

## 2. 調査の目的と方法

県内における本種の分布については、今までのべた通り、いまだ漠然としており、越冬については風早保男氏の報告があるのみで、あまりに少ない。そこで、これらの事実をより効果的に確認する為、越冬中の蛹を発見し自然状態での羽化を観察することとした。これにより、分布状況と越冬、および、他の生態に関するデータまで幅ひろく得るこ

とができるからである。調査の方法は、本種が、県南部によく見かけられることから、民家に植えられているミカンの木を主に当ることとした。範囲は南部の瀬戸内沿岸部と中部の吉備高原で、北部の脊梁山地は今回の対象に入っていない。

### 3. 調査記録

上記の方法を中心として調査したところ、多大の成果をあげることができたので、これらのデータを日付順に列記しておく。

- ①岡山市一宮 25. XI. '79, ハッサクの近くにある木の門より褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ②岡山市祇園地先 6. XI. '79, ナツダイダイの小枝上で 1 ex. の蛹、および付近のコンクリートの建物より 6 exs. の蛹を採集。いずれも褐色であった。
- ③岡山市久保山田 9. XI. '79, ユズの小枝より褐色の蛹 3 exs. 終齢幼虫 1 ex. 前蛹 2 exs. を確認した。また、すぐそばにある民家の軒下より 6 exs. の褐色蛹を採集した。
- ④御津郡建部町前田 13. XI. '79, ユズの大木で、地上 4 m 位のところの小枝に褐色の蛹 1 ex. を確認。
- ⑤岡山市福泊 14. XI. '79, ナツダイダイのすぐ近くにある土壙に褐色の蛹 2 exs. 採集。
- ⑥岡山市西大寺中野 14. XI. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ⑦赤磐郡瀬戸町鍛治屋 17. XI. '79, ウンシュウミカンの小枝より緑色の蛹 1 ex. 確認.
- ⑧赤磐郡熊山町小瀬木 17. XI. '79, ハッサクより緑色の蛹 1 ex. 採集.
- ⑨和気郡和氣町藤野宿 17. XI. '79, ユズより褐色の蛹 9 exs. を確認した。その他寄生されている蛹も含めると合計 20 exs. を確認できた。蛹化場所は幹または小枝上であった。付近には建物がなく、わずかに低いブロック壙があるも見い出せなかった。このユズの南には高さ 10m 以上もある大木があり、ユズの位置はこもれ日のあたる所であった。
- ⑩岡山市妹尾 21. XI. '79, 高さ 2 m 位のレモンの小枝より緑色の蛹 1 ex. 採集.
- ⑪岡山市箕島乗越 21. XI. '79, ナルトミカシより褐色の蛹 7 exs. を採集した。すぐ近くに民家とブロック壙があるも見い出せなかった。
- ⑫都窪郡早島町前湯 21. XI. '79, ユズより褐色の蛹 1 ex. また同所にてレモンの小枝より緑色の蛹 1 ex. を確認した。
- ⑬都窪郡早島町金田 21. XI. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ⑭御津郡御津町金川 23. XI. '79, カラタチより緑色の蛹 1 ex. を採集した。斜めに張り出した小枝に頭部を木の中心部に向けて蛹化していた珍らしい例であった。
- ⑮倉敷市林 24. XI. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ⑯倉敷市徳芳 25. XI. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ⑰岡山市久保谷 25. XI. '79, ハッサクより褐色の蛹 3 exs. 採集.
- ⑱岡山市花尻 25. XI. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ⑲井原市井原町 29. XI. '79, 高さ 2 m 位のユズより終齢幼虫 1 ex. 確認.

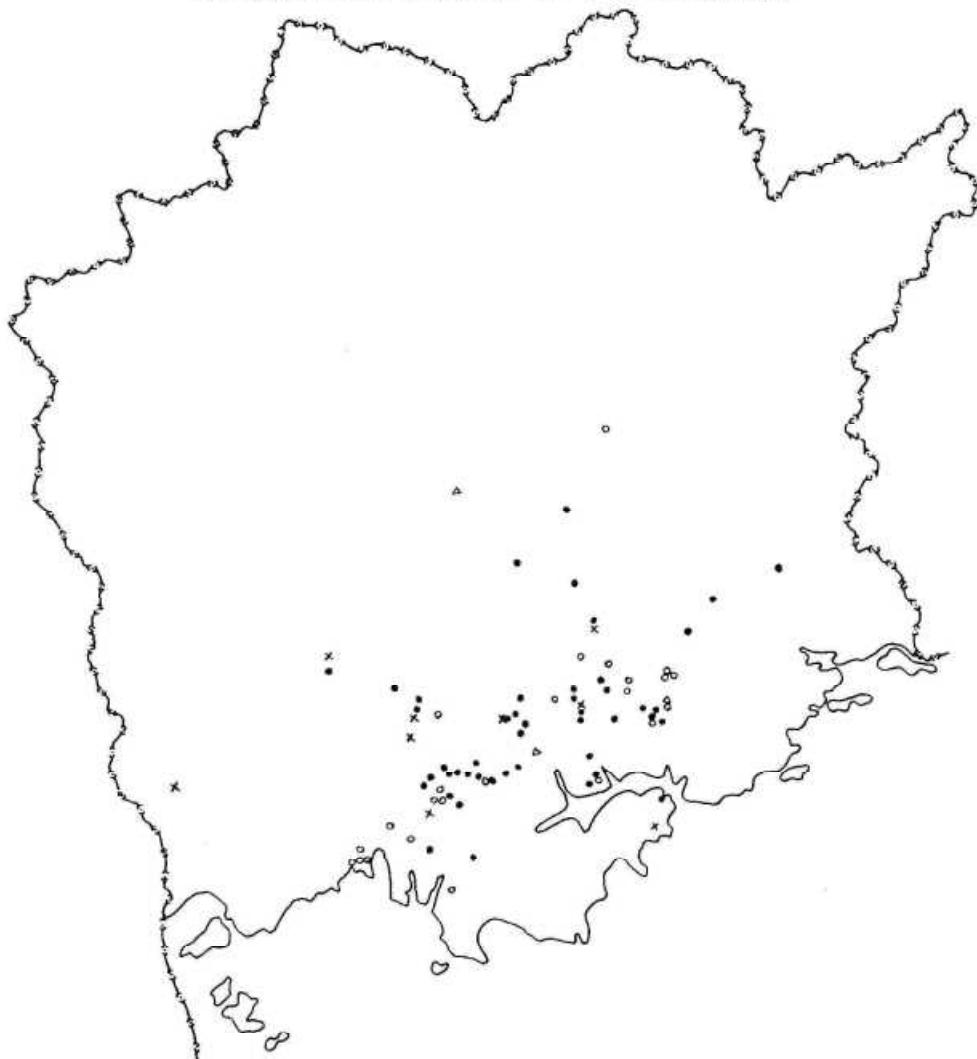
- ㉙倉敷市中島 3. XII. '79, ハッサクより緑色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉚岡山市西大寺 4. XII. '79, ナツダイダイの小枝より褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ㉛岡山市新福 4. XII. '79, ハッサクの小枝より褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉜倉敷市加須山西条 6. XII. '79, ナツダイダイより褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉝総社市井尻野 7. XII. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉞総社市溝口 7. XII. '79, ハッサクより終齢幼虫 1 ex. を確認した. この幼虫は蛹化の為の糸張りをしており, 小枝の上部を往復していた. そのうち下にまわり下の糸の準備をはじめた. 後日 14. XII. '79, の観察では前蛹となっており, 24. XII. '79, の観察では蛹となれず, そのまま自然死していた.
- ㉟岡山市下牧 9. XII. '79, ハッサクの葉上に終齢幼虫が自然死しているのを確認した.
- ㉠岡山市中牧上ノ上 9. XII. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ㉡倉敷市西坂原津 14. XII. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉢倉敷市中庄仁部 14. XII. '79, ナツダイダイのすぐ近くの板塀に褐色の蛹 3 exs. 採集.
- ㉣岡山市向小串 14. XII. '79, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 採集. (吉田嘉男)
- ㉤岡山市国府市場 18. XII. '79, ハッサクより緑色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉥倉敷市水島南幸町 22. XII. '79, ハッサクより褐色の蛹 3 exs. 採集.
- ㉦岡山市広谷 22. XII. '79, ハッサクより褐色の蛹 2 exs. 確認.
- ㉧岡山市浜 23. XII. '79, ナツダイダイより褐色の蛹 2 exs. 採集.
- ㉨総社市真壁 24. XII. '79, ハッサクの小枝より蛹のヌケガラ 1 ex. 確認.
- ㉩岡山市門田文化町 24. XII. '79, ユズより褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉪総社市原 12. I. '80, ユズより蛹のヌケガラ 1 ex. 確認.
- ㉫総社市湊 12. I. '80, ハッサクの幹より褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉬都窪郡清音村大原 12. I. '80, ハッサクより蛹のヌケガラ 1 ex. 確認.
- ㉭倉敷市中庄松山 16. I. '80, ダイダイより褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ㉮岡山市大多羅町 19. I. '80, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 採集.
- ㉯岡山市吉備津宮内 21. I. '80, ユズより褐色の蛹 1 ex. 確認. また同所にてナツダイダイより蛹のヌケガラ 3 exs. を確認した.
- ㉰岡山市吉備津向畑 21. I. '80, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉱岡山市築港栄町 23. I. '80, ハッサクより褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ㉲岡山市西川原 25. I. '80, ナツダイダイより褐色の蛹 10 exs. 確認. またすぐ近くの物置小屋の軒下や, それより出た針金より 5 exs. の褐色の蛹を採集した.
- ㉳御津郡加茂川町円城 2. II. '80, ユズの幹より褐色の蛹 1 ex. 確認. 蛹化場所としては珍らしく, 小枝が広がった下の直径 10cm もある幹で, 地上 50cm 位のところであった.
- ㉴総社市美袋 2. II. '80, ハッサクより緑色の蛹 1 ex. 確認. また近くの軒下の釘に褐色の蛹 1 ex. を確認した.
- ㉵岡山市米倉 7. II. '80, ナツダイダイより褐色の蛹 10 exs. 確認.

- ⑨岡山市北方 8. II. '80, ハッサクより緑色の蛹 1 ex. 確認. またすぐ近くの民家の軒下より褐色の蛹 2 exs. を確認した. そして付近のコデマリの幹と小枝の分岐部に褐色の蛹 1 ex. を確認した.
- ⑩倉敷市水江 16. II. '80, ナツダイダイの近くにある民家の軒下より褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ⑪倉敷市大内 16. II. '80, ユズの小枝より緑色の蛹 3 exs. 採集. (吉田嘉男)
- ⑫倉敷市東町 16. II. '80, ユズの近くにある民家の軒下より褐色の蛹 2 exs. 採集.
- ⑬御津郡御津町紙工 3. III. '80, ユズの小枝より褐色の蛹 1 ex. 確認.
- ⑭岡山市北方 11. IV. '80, ハッサクより 3 m 位離れたところにあるアクラの小枝に褐色の蛹 1 ex. を確認した.
- ⑮岡山市米倉 12. V. '80, ナツダイダイより, 7. II. '80, に確認している越冬蛹より羽化しているところが観察できた. 午前10時30分にはすでに 2 ♂ 1 ♀ が蛹ガラにぶらさがっており翅をかわかしていた.
- ⑯玉野市番田 12. VII. '80, キンギョソウの花に 1 ♀ の訪花を確認. (吉田嘉男)
- ⑰玉野市番田 23. VII. '80, 午後4時頃ハッサクの葉裏に 2 卵を産卵した. (吉田嘉男)
- ⑱岡山市御成町 27. VII. '80, 午後1時頃クサギの花に 1 ♀ の訪花を確認した. この個体は県内産としては前後翅とも白色部のかなり発達した個体であった.
- ⑲倉敷市西中新田 30. VII. '80, 午後1時30分頃, 小雨の中を, クサギの花に訪花中の 2 ♂ 2 ♀ を観察した.
- ⑳岡山市築港元町 9. X. '80, レモンより終齢幼虫 10 exs. と, 緑色の蛹 1 ex. を確認した. (吉田嘉男)
- ㉑岡山市久保山田 14. XI. '80, ユズより褐色の蛹 13 exs. 採集. また付近の民家の軒下より褐色の蛹 5 exs. を採集した.
- ㉒岡山市広谷 15. XI. '80, ハッサクより褐色の蛹 14 exs. 採集.
- ㉓岡山市西川原 16. XI. '80, ナツダイダイより褐色の蛹 5 exs. 確認.

#### 4. 分布の状況

すでに報告されているところと, この調査で判明したところを, 図に示してみた.  
 ○印は, すでに報告されているところである. そして, この報告に記したものの中で,  
 ●印は, 越冬蛹を確認, または採集したところを示し, △印は, 越冬後の羽化について,  
 直接観察したか, スケガラを確認したところを示した. また×印は, 幼虫と成虫, および  
 蛹のスケガラを観察したところである. ●印に比べ, △印が少ないので, その確認が充分  
 になされなかった為である.

### 岡山県内におけるナガサキアゲハの確認地点



### 5. 越冬蛹の確認できた付近の状況

よく確認できた場所は、民家の堀の中に植えられているナツダイダイ、ハッサク、ユズなどで、高さ2m～4mの比較的大きな木であった。堀の中にある木と外にある木では、かなりの差で中にある木が多い。また、木の位置は民家の南側にあるものには少なく、北側あるいは西側の木に多く見つかった。田のあぜにある風の良くあたるところの木には、きわめて稀で、山の斜面等に栽培されているミカンには木が多くあるにもかかわらず、ほとんど見つけることができなかった。

### 6. 越冬蛹の蛹化場所

蛹化場所はあらゆるところにおよぶが、もっとも多いのは食樹上である。褐色の幹上および小枝に多く、これらはすべて褐色の蛹であった。緑色の小枝および葉の裏では緑色の蛹となるが、褐色のものと比べると稀である。次に多いのは民家の軒下、板堀、土堀、そ

の他造作物や、置物の裏であった。そして少ないと、付近の植物の小枝に見い出された。付近に建築物があれば、コンクリートでも移動しているが、その建物との距離が5mを越えているときはあまり確認できなかった。

## 7. 食樹と蛹の体長

いままでに報告されている食樹としては、1972年に西島真也氏が、ハッサクによる飼育例と、食樹として考えられるものに数種類を記されている。<sup>4)</sup>それ以後いくつかの報告があるが、いずれも野外における食樹の種類については明記されていない。1978年筆者が、すずむし、第115号においてハッサク等5種類をあげている。<sup>10)</sup>今回の調査は、本種以外の調査もあって、県内のミカン科植物をかなり広範囲に観察した。調べた種類をすべて列記してみると、①ユズ、②ナツダイダイ、③ハッサク、④ウンシュウミカン、⑤レモン、⑥カラタチ、⑦ナルトミカン、⑧ダイダイ、⑨サンショウ、⑩フュザンショウ、⑪イヌザンショウ、⑫コカラスザンショウ、⑬カラスノサンショウ、⑭コクサギ、⑮キハダ、⑯キンカンである。このうち①～⑧までの種類を食樹としていることがより確かに把握できた。①～⑧までの中で、とくに多かったのは①、②、③、⑤、⑦であった。蛹の体長については、採集したうちの36個体を測定したところ、最低は36mmで最高は41mmであり、平均は38.6mmであった。食樹別で見ると大差はないが、ナツダイダイとハッサクより得たものが、他のものより僅かながら大きかった。

## 8. 越冬と土着について

県南部での越冬については1977年に風早保男氏が、すずむし、第114号に報告している。<sup>8)</sup>分布図を見ると風早氏が指摘している通り、県南部でかなり広範囲に越冬していることは明らかである。

また、中部では例が少ないが、御津町金川、御津町紙工、建部町前田、そして加茂川町円城がある。特に円城では標高300mで積雪も多いところである。翌年羽化済であることが確認できたことから、ここ以北での調査が望まれる。土着については毎年多くの成虫が春型から見られ、越冬蛹の多く確認できる木には、ここ3年平均して蛹が得られることからこれも明らかである。

## 9. おわりに

反省と今後に残された問題を記してみる。今から10年以上も前には、成虫の目撃もほとんどできなかった本種が、1975年頃より、次第に南部で目撃されるようになった。今では、越冬蛹の調査結果、南部ではアゲハチョウにならぶ個体数まで多くなり、クロアゲハは、まったくナガサキアゲハに追われている状態となった。クロアゲハの蛹は、本種よりはるかに少ないのである。成虫も大型の黒いアゲハを見ると、ナガサキアゲハかモンキアゲハであり、クロアゲハはむしろ珍品となった。では、なぜ本種がここ数年急激に個体数を増したのであろうか？ この目立つアゲハが、今まで調査不足であった、という理由は、おそらく当らない。食樹であるミカン科植物は前からあるし、栽培地がここ数年急に増え

たこともない。気温はどうか、過去20年間の夏（6月～8月）と冬（12月～2月）の平均気温と、年間の平均気温を調べてみた（岡山地方気象台）。年によって多少の高低はあるが、ここ20年の推移で見るかぎり、ある一定の温度差の範囲内で推移しており、全体の変化はほとんどなかった。

この異常とも思える、急激な個体数の増加についての疑問をときあかすことが、今後の課題であろう。中部吉備高原では、北部よりの状況をもう少し詳しく調査する必要があった。このあたりより北において、本種が食樹としている中では、ユズのみにしばられ、他のミカン科植物は、ほとんど見かけない。また県北地方については、いまだ未調査なので今後の調査を必要とする。

次に周年経過として西島氏が1972年（すずむし第109号）において詳しい報告があり、5月中旬～9月上旬のデータにより年3化が報じられていることは、はじめに述べたとおりである。ところが、ここ数年個体数が多くなるにつれて、10月に入っても成虫が目撃されるようになった。3化以上発生しているものと思われるが、観察データを多くすることにより、明らかになるものと思う。前記の越冬範囲とともに、今後の調査に期待したい。

### 引　用　文　献

- 1) 近藤光宏 (1960) ナガサキアゲハを追って (すずむし, Vol. 10, No. 1 : 6)
- 2) 近藤光宏 (1962) ナガサキアゲハ倉敷でついに記録される (すずむし, Vol. 12, No. 3 : 27)
- 3) 倉敷昆虫同好会 (1972) 岡山県の蝶 (すずむし, 第108号 : 12)
- 4) 西島真也 (1972) ナガサキアゲハの生態について (すずむし, 第109号 : 41)
- 5) 近藤光宏 (1975) 倉敷市玉島地区のナガサキアゲハ (すずむし, 第111号 : 27)
- 6) 難波通孝 (1975) 岡山県産蝶類の分布に関する知見 (すずむし, 第112号 : 31)
- 7) 尾塔順三 (1975) 倉敷市内でナガサキアゲハ春型の目撃 (すずむし, 第112号 : 23)
- 8) 風早保男 (1977) 総社市でナガサキアゲハの越冬蛹 (すずむし, 第114号 : 44)
- 9) 赤枝一弘 (1977) 西大寺のナガサキアゲハ (すずむし, 第114号 : 44)
- 10) 難波通孝 (1978) 岡山県産蝶類に関する知見 (すずむし, 第115号 : 16)
- 11) 尾塔順三 (1978) 久米南町でナガサキアゲハ (すずむし, 第115号 : 13)

# 久米郡でのチョウ 5種の知見について

尾 塔 順 三

(〒709-46 久米郡久米町神代563)

## 1. *Papilio memnon thunbergii* von SIEBLD,1824 ナガサキアゲハ

本種は美作地方ではほとんど記録がなく、筆者は勤務先の久米南町誕生寺養護学校内で6. IV. 1978, 1♀を目撃したが（すずむし, 115号）その後採集したので報告する。いずれも南部から迷入し、一時的に発生したものらしく、土着とは認め難い。

1♀, 3. IX. 1979: 1♀, 7. IX. 1980 久米郡中央町打穴下

（以上黒瀬郁恵採集保存）

1♀, 7. VIII. 1980 久米郡久米町神代

このメスは51卵を生み9月中下旬に15♂ 9♀が羽化した。

1♂, IX. 1980 久米郡久米町神代

## 2. *Neptis pryeri* BUTER,1871 ホシミスジ

美作地方では真庭郡の一部以外未記録なので報告する。

1♂, 3. IX. 1980 久米郡久米南町山の城・県立誕生寺養護学校内

近くの民家にユキヤナギが植えてあり、そこで発生したものと思われる。

## 3. *Wagimo signata* BUTLER,1881 ウラミスジシジミ

久米郡からは未記録なので報告する。

2卵, 31. XII. 1978 久米郡中央町大併和東

13卵, 13. I. 1979 久米郡中央町大併和西

本種は御津郡建部町入野で発見されているが（岸等, すずむし, 113号）大併和地区は入野から5km離れているだけでなく、地形的にも似ているので産地は他にも散在しているものと思われる。なお飼育により6月9日2♂ 3♀が羽化した。

## 4. *Papilio maackii tutanus* FENTON,1881 ミヤマカラスアゲハ

久米郡からは久米南町上松（岸等, すずむし, 113号）に次ぐ記録である。

1♂, 31. VII. 1978: 1♀, 20. VIII. 1980 久米郡久米町神代

このうち、メス採集個体は20日～23日の4日間で213個の卵を生み飼育の結果53頭が蛹化し10月19日1♂が羽化した以外すべて越冬に入っている。

3齢幼虫2及び8卵 久米郡久米町里公文

民家のキハダより採取した。

## 5. *Argyreus hyperbius* LINNAEUS,1763 ツマグロヒョウモンの自然蛹化位置

1980年10月上旬、久米郡久米町神代のシロスマリの群生する植木畑に多くの幼虫が見られ、蛹も7頭発見したが、蛹化位置はいずれもチガヤ、ヨモギ等のかり倒された枯草の地上5～20cmであった。生きている草木からは発見されなかった。

なお、10月中旬～11月上旬の好天の日には多くの成虫が見られた。

# 高鉢山(鳥取県)のカミキリムシ追加報告Ⅳ

那 須 敏(〒704 岡山市可知 4-23-4)  
山 地 治(〒700 岡山市幸町 9-9)

1980年は全国的な冷夏であった。悪天候の日が多くたため陽光性の昆虫の姿が少なかった。夏にヤノトラカミキリが集まっていたエゾエノキが冬の積雪のため倒れ、この木の枯枝から1979年初めて発見されたアカネキスジトラカミキリは今年多数が得られたが、ヤノトラカミキリの方はすっかり姿を消してしまった。伐採が終って3年、土場周辺に驚く程いたキモンカミキリを始めその後殆ど採集していない種類も多いが、今回も意外な種類を含めて、8種類を追加出来ることになった。記録の発表を許された方には御礼を申し上げる。

(注) 1. 学名の前の番号は前報からの続きとした。

2. 学名の前の\*印は「東中国山地自然環境調査報告」における鳥取県の当地域の目録に載っていない種である。

## 高鉢山産カミキリムシ目録一追加報告Ⅳ

184. *Gauromes atripennis* MATSUSHITA クビアカドウガネハナカミキリ

1 ex., 12. VI. 1980 山下晶採集. ゴトウヅル花上.

岡山県下では低山帯で採集されており、アカマツを食樹としていると思われる本種がスギ以外の針葉樹が殆ど見られない所で得られたのは驚ろきである。

185. *Anoplodera azumensis* (MATSUSHITA et TAMANUKI) ルリハナカミキリ

1 ex., 12. VI. 1980 山下晶採集. ゴトウヅル花上.

中国地方では稀な種類である。

186.\**Necydalis gigantea* KANO オニホソコバネカミキリ

1 ♀, 9. VII. 1980 山下晶採集 ブナ大木の根元付近を飛翔中.

北海道から屋久島まで分布しているが、関東地方以外の記録は少なく、中国地方では初記録。食樹として知られている桑は佐治谷の道路沿いに点々と見られるが、採集地点では殆ど見られない。ケヤキに飛来するという記述もあり、今後の調査を待ちたい。

187.\**Anaglyptus bellus* MATSUMURA et MATSUSHITA アカジマトラカミキリ

V. 1979 エゾエノキ枯枝採取→1 ex., 17. VII. 1980 羽化脱出 (出雲善浩); 22.

VII. 1979 エゾエノキ枯枝（直径約15cm）採取→1ex., 4. IX. 1980 羽化脱出（黒田祐一）；29. IV. 1980 ケヤキ枯枝採取→1ex., 15. VIII. 1980; 1ex., 2. IX. 1980 羽化脱出（竹内幸夫）；18. V. 1980 エゾエノキ枯枝採取→1ex., 21. IX. 1980 材中より羽化失敗個体を割り出す（那須敏）；5exs., 23. IX. 1980 エゾエノキ倒木に飛来 出雲善浩・遠山雅夫採集。

食樹としてケヤキが良く知られているが、ケヤキとともにエゾエノキからも得られた。

188. *Mecynippus pubicornis* BATES イタヤカミキリ

2♀, 12. VII. 1980 山地治採集。

1♂, 13. VII. 1980 那須敏採集。

いずれも山麓のヤナギ生木より得られた。

189. \**Glenea centroguttata* FAIRMAIRE イツシキキモソカミキリ

1♂, 2. VIII. 1980 福田元信採集。

佐治谷の尾際で得られているので、山麓より飛来したのかも知れない。採集地点附近には食樹のクワは殆ど見られない。

190. *Phytoecia rufiventris* GAUTIER キクスイカミキリ

1ex., 24. V. 1980 那須敏採集。

3exs., 12. VI. 1980 山下晶採集。

いずれもヨモギ葉上より得られた。

191. \**Oberea sobosana* OHBAYASHI ソボリンゴカミキリ

1♂, 2. VIII. 1980 山地治採集。

採集地点ではツクシシャクナゲ葉裏に本種のものと思われる後食跡が見られた。

### 新 知 見

170. *Stenhomalus takaosanus* OHBAYASHI タカオメダカカミキリ

6exs., 4. V. 1980 那須敏・山地治採集；15exs., 11. V. 1980 那須敏採集。以上すべてチドリノキ花土；1ex., 24. V. 1980 那須敏採集。コハウチワカエデ花上。

前報ではアオハダ（樹種不明としていた）の花上で得られた1頭だけであったが今回チドリノキ花上に多数集まることがわかった。

173. *Cyrtoclytus monticallis* KOMIYA アカネキスジトラカミキリ

野外採集例（1980年）

2♀, 19. IV. 吉川賢採集 エゾエノキ材中より；16♂, 5♀, 11. V. 1980 出雲善浩・那須敏・渡辺昭彦採集；1♂, 2♀, 14. V. 竹内幸夫採集；6♂, 2♀, 17. V. 藤田宏・山地治採集；1ex., 19. V. 山下晶採集；1♂, 2♀, 24. V. 山地治採集；1♂, 1♀, 28. V. 竹内幸夫採集；4exs., 1. VI. 竹内幸夫・福田元信採集。

羽化脱出例

1979年エゾエノキ枯枝採取→3♀, (14・20・25). III. 1980 羽化脱出（出雲善浩）；

1979年エゾエノキ枯枝採取→2 exs., 24. IV. 1980 羽化脱出(福田元信); 19. IV. 1980 エゾエノキ枯枝採取→1 ♀, 29. IV. 1980 羽化脱出(吉川賢); 4. V. 1980 エゾエノキ枯枝採取→5. V. 1980 羽化脱出(那須敏); 1979年エゾエノキ枯枝採取→1 ♀, 1980年8月に脱出口で死んでいた個体に気づく。(杉野広一)

前報に *Cyrtoclytus* sp. として報告した種であるが、小宮次郎氏により上記学名の種として記載された。今の所エゾエノキ材より羽化脱出しており成虫もエゾエノキ枯枝上に集まるようである。羽化脱出例は1980年前半までのものを挙げたが、その後生態について黒田祐一氏が研究されている。

168. *Paramenesia kasugensis* (SEKI et KOBAYASHI) カスガキモンカミキリ  
many exs., 13. VII. ~ 2. VIII. 1980.

追加報告Ⅱに記録した種で、その後少數ずつ採集されていたが、今年シテ類の倒木上より多数の個体が得られた。曇天の日は午前中から、晴天の日は午後4時~6時頃これらに飛来し産卵行動をした。

### 参考文献

- 1) 小宮次郎 (1980) : 鳥取県におけるトラカミキリ族の一新種, ELYTRA, 7(2) p. 33, 34.
- 2) 藤田宏 (1980) : 鳥取県高鉢山のアカネキスジトラカミキリ, 月刊むし, No. 113 p. 2~6.
- 3) 兵庫県・岡山県・鳥取県 (1974) : 東中国山地自然環境調査報告.
- 4) 黒田祐一 (1980) : アカネキスジトラカミキリ *Cyrtoclytus monticallisus* KOMIYA の生態について, すずむし, No. 117 p. 1~3.

### ヒゲナガヒメルリカミキリ臥牛山に産す

竹内 幸夫(〒708 津山市林田790-1)

本年3月、渡辺昭彦氏と共に臥牛山で得たカゴノキ、ケヤキの枯材を保存していたところ、本種が羽化脱出しました。さきに苦田郡阿波村で採集したことがあります、その他の地では未記録と思いますので、第2の産地として報告しておきます。

*Praolia citrinipes* Bates ヒゲナガヒメルリカミキリ

高梁市臥牛山 1 ex. 30. V. 1980 羽化脱出.

また、カゴノキ、ケヤキは別々のポリ袋に入れてはいましたが同じ容器内に納めてあつたためどちらの材から脱出したのか断定はできませんでした。

なお、カゴノキよりベーツヤサカミキリ 2 exs. 24. IV. および 10. V., キイロメダカミキリ 11 exs. 15. VI. ~ 30. VI., ヨコヤマヒメカミキリ 1 exs. 20. VI. 等が羽化脱出しましたのであわせて報告します。

## ムツボシタマムシ 3種の記録

那須 敏・山地 治

県下における *Chrysobothris* 属のタマムシは、現在のところ次の 3種が産することが知られている。筆者らは数年来これらの分布調査を行っているが、県外の新産地と共に過去の未発表の産地・若干の知見等を加えて報告しておきたい。

### 1. *Chrysobothris samurai* OBENBERGER ツシマムツボシタマムシ

総社市宇山 3 exs., 17. V. 1975

岡山市中牧 2 exs., 29. IV. 1979

御津郡御津町高津 1 ex., 3. V. 1979

岡山市足守町勝尾峰 2 exs., 26. V. 1980

赤磐郡吉井町塩木 4 exs., 12~15. VI. 1980

岡山市奥矢津 12 exs., 1~15. VI. 1980

\*鳥取県八頭郡用瀬町山口 3 exs., 24. V. 1980

鳥取県初記録と思われる。標高約300mのコナラ・クリを主体とした伐採地で、これらの伐採枝からムツボシタマと共に採集された。岡山県内においては既に三大河川流域（県の中部地方）に産することが知られているが、今回県南の沖積平野部でも発見され、鳥取県の記録からも北部脊梁山地の比較的標高の低い箇所での分布が予想される。中・南部での採集地は、いずれもアベマキ・コナラ・ナラガシワを主とした伐採地であり、4月下旬から7月上旬にかけてそれらの伐採地から見い出される。本種が発見された当初はモンクロベニカミキリ採集の副産物としてであったが、食性が一致するため上記産地でもほとんど例外なく両種の発生が見られる。

なお、本種には 6 紋型と 4 紹型が知られており、筆者らが検した県下45個体の割合は、6 紹型12に対し 4 紹型33であり、6 紹型の雌雄比はほぼ 1 対 1 であった。鳥取県産 3 個体は 6 紹型 1 に対し 4 紹型 2 である。

### 2. *C. succedanea* E. SAUNDERS ムツボシタマムシ

高梁市臥牛山 1 ex., 17. VII. 1966

総社市楓 1 ex., 21. VI. 1970

岡山市小林寺 1 ex., 30. VI. 1971

岡山市津島岡大構内 3 exs., 13. VI. 1974

高梁市広瀬 2 exs., 24. V. 1975

御津郡御津町金川 3 exs., 31. V. 1975

赤磐郡赤坂町合田 1 ex., 10. VI. 1975

岡山市中牧 1 ex., 29. IV. 1979

岡山市奥矢津 4 exs., 1~12. VI. 1980

赤磐郡吉井町塩木 10exs., 12~15. VI. 1980

県中南部においては前種と同様の環境にて4月下旬~7月上旬にかけて見られる。岡山大学構内ではキリの倒木に集まっていた。

3. *C. ohbayashii* Y. KUROSAWA オオムツボシタマムシ

赤磐郡赤坂町合田 14exs., 10~23. VI. 1975

御津郡御津町天満 3 exs., 14. VI. 1975

高梁市臥牛山 1 ex., 6. VI. 1975

赤磐郡吉井町塩木 2 exs., 12. VI. 1980

臥牛山に産することは以前から知られていたが、ふいご峠付近の生きたカシ類倒木に集まるのを観察している。他の産地でも、アベマキ等シイタケのほだ木にも集まるが、むしろカシ類の伐採木上で多く得ている。

以上3種を報告したが、日周活動は3種ともほとんど変わりがなく、日中は飛び回りよく伐採枝上を歩いている。しかし、夕暮れ時になると非常に不活発となり、beating, 手づかみなどの方法で容易に採集できる。発生のピークにはいくらか差異が認められ、3種が同時に採集される赤磐郡内においては、*C. samurai* は5月下旬、*C. succedanea* は6月中旬、*C. ohbayashii* は6月中旬~下旬の限られた時期といったぐあいである。

なお、*Chrysobothris* 属のもので上記以外の種としてアムールムツボシタマが兵庫県で、ダイセンムツボシタマが鳥取県で記録されており、岡山県でも北部脊梁山地の標高の高い箇所に分布している可能性がないでもない。

### 参 考 文 献

1. 山砥司郎 (1966), 倉敷産タマムシ数種, すずむし, 16(1): 16.
2. 中根猛彦・大林一夫・野村鎮・黒沢良彦 (1970), 原色昆虫大図鑑 (第2巻).
3. 秋山黄洋 (1976), ツシマムツボシタマムシ岡山に産す. 甲虫ニュース, No. 33: 10.
4. 黒沢良彦 (1976), ツシマムツボシタマムシの学名と分布. 甲虫ニュース, No. 33: 10.
5. ——— (1976), 日本産タマムシ科概説(19). 甲虫ニュース, No. 36: 4.
6. 山地治 (1978), 岡山県より採集した甲虫類. すずむし, No. 115: 26.

## ダイセンシジミを賀陽町で採集す

難 波 圭 吾 (〒719-11 総社市上原349-2)

吉備高原地域では記録の少ないダイセンシジミ *Wagimo signata* BUTLER f. *quercivora* STAUDINGER を賀陽町で採集したので報告しておく。

上房郡賀陽町神子山 (520m) 1 ex., Aug. 13, 1978

コナラ、アベマキを主とする疎林で得たもので、やや汚損していた。

## 岡山県南部の注目すべき蝶3種

三 熊 良 一(〒704 岡山市西大寺中2-22-25)

筆者は永年県南部の蝶について調査を行っているが、岡山市芥子山(標高232m)において下記のような比較的稀と思われる種を記録しているので報告する。

1. *Sasakia charonda* HEWITSON オオムラサキ

2♂, 16~17. VII. 1980

頂上の灌木葉上に飛来したものを採集。かなり新鮮な個体であり、ふもとにはエノキも多く自生しているので恐らくここで発生したものと思われる。

2. *Dichorragia nesimachus nesiotes* FRUHSTORFER スミナガシ

1♂, 29. VII. 1979

頂上付近の岩の上に止まっているものを採集。過去1962年の夏にも同地区で樹液に来ていた本種1頭を採集・保管している。

3. *Choaspes benjaminii japonica* MURRAY アオバセセリ

7♂, 2~6. IX. 1978; 3♂, 3. VII. 1979; 11♂, 29. VII~11. IX. 1979; 2♂, 12. VII. 1980; 4♂, 27. VII~4. IX. 1980

いずれも頂上付近で高さ2~3mのアベマキ・コナラ等の上をテリトリーを争って飛び回っていたものである。今年7月に採集したものは夏型としては早いと思われる時期にもかかわらずかなりいたんでおり、8月下旬~9月上旬に得られた多くは新鮮であった。過去の県南部の目撃例からも或いは部分的な第3化が発生しているものかもしれない。頂上で得られるものは占有行動のためすべて♂であり、付近には食草が見られないが当地に土着していることはまず間違いかろう。今後食草の発見と共に本種の周年経過を明らかにしていきたい。

以上3種はすべて占有行動をとるため頂上に集まったものであるが、筆者はこれら以外にタテハではアカ・ヒメアカ・ゴマダラ・ツマグロヒョウモン、アゲハではモンキ・カラス・クロ・キアゲハ等の占有行動も観察している。

## 蒜山でキバネセセリを採集

三 熊 良 一

キバネセセリ *Bibasis aquilina chrysaeglia* BUTLERは「岡山県の蝶」によると真庭郡内において2度記録されているだけの稀種であるが、筆者も下記のように採集することができたので報告しておく。

真庭郡八束村犬挾峠 2♂, 27. VII. 1980

当日は曇天であったが、午前9時頃地面に降りたった1♂を採集、続いて付近の雑草を叩いて飛び出した1♂も得ることができた。あたりには本種の食樹とされるハリギリは見られない。いずれも新鮮な個体で手元の北海道産の♀と比べてもかなり大きな個体である。

## 岡山県南部のシンジュサンの記録

那須 敏・三河内 房子

大型美麗種であるシンジュサン *Phiosamia cynthia pryeri* BUTLER は過去「すずむし」誌上 Vol. 14, No. 2において槙本氏の解説があり、6月及び8月ころ県内各地に産するものと認められるとされている。しかしながら県南部での記録はわずかに都窪郡福田村及び岡山市半田山の2例のみであり、ヤママユガ科のものとしては少ないものの1つと思われていた。筆者らは1979年、1980年の両年に本種を少なからず得ており、本年終令幼虫を得ることができたので以下に記録にとどめておく。

岡山市西大寺中野 1 ex., 20. VIII. 1979; 3 exs., 10~14. VIII. 1980 (三河内採・所蔵)

岡山市可知 1 ex., 24. VIII. 1980 (自宅灯火にて那須採・所蔵)

岡山市光津 2 exs., 27. VIII. 1980 (前夜灯火に飛来したと思われ那須採・所蔵、付近の人の話では他にもかなり見られたという。)

岡山市西大寺中野 終令幼虫 1 ex., 3. X. 1980 (自宅のクロガネモチにて赤枝採。)

岡山市西大寺富士見町 終令幼虫 1 ex., 8. X. 1980 (門柱より三河内採。)

赤枝氏の話によれば岡山市倉富において1979年中に数頭目撃し、自宅にても引き続き同木葉上にて終令幼虫2頭を発見されうち2頭を蛹化させている。ヤママユガ科の蛹としては極めて小さい印象を受け、数枚の葉を包み込むようにして繭を作っていた。三河内宅でも近縁のネズミモチ葉上にいた終令幼虫2頭を観察している。

なお、県南部ではないが次の1個体もあわせて報告しておく。

赤磐郡吉井町 1 ex., 5. VII. 1980 ドライブイン菊ヶ峰にある殺虫灯にて那須採。

死個体ではあったが、2週間前に中を調べた時には見られなかったので恐らくこの間に飛来し死んだものであろう。

最後に文献の他快くデータを提供された赤枝一弘氏に深謝します。

## オオキンカメムシの2記録

那須 敏

成虫越冬で知られるオオキンカメムシ *Eucorysses grandis* THUNBERG は県南部(特に倉敷方面)で採集されているようであるが、筆者は岡山市の2箇所で採集された本種を確認したので報告しておく。

岡山市西大寺中野 1 ex., 2. VIII. 1977 (自宅近くにて三河内房子採・所蔵)

岡山市海岸通 1 ex., 23. X. 1980 (クラレ岡山工場内の温水配管に止っていたものを森脇正採・昆虫館展示)

なお、発表を快諾された両氏に紙上ながら深謝します。

## イシガケチョウの分布資料

中村具見(〒719-11 総社市真壁1048)

イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas mabella* FRUHSTORFER は、倉敷市児島味野('40)<sup>1)</sup>及び英田郡大原町(IV. 10, '58)<sup>2)</sup>という2例の記録以後しばらく報告がなく偶産種と見なされてきたが、近年、県南部の瀬戸内沿岸地域を中心に確認例が相次ぎ、また、難波<sup>2)</sup>により倉敷市児島における発生状況など生態に関する報告もなされて、県下に確実に分布することが明らかになった種である。筆者の手元にも、未発表の分布資料が若干あるので、今後、詳細な分布状況を知るための参考としてまとめて報告しておく。

貴重なデータを快く提供していただいた方々に深謝いたします。

1. 川上郡備中町長屋 1♀, XI. 5, 1978 中村具見

採集個体は、わずかに破損しているもののきわめて新鮮であり、秋季に当地もしくは周辺の地域で発生したものと思われる。当日は小春日和の暖かな日で、陽当たりのよい斜面を飛ぶ本種をこのほかにも見ることができた。

2. 岡山市金山 1♀, VII. 28, 1979; 1ex., 目撃, VI. 13, 1980; 1♀, VII. 19, 1980,  
いずれも織田明文: 1♀, VII. 19, 1980, 中村

すべて山頂付近で確認されているもので、ここにデータを示したほかにも他の同好者によりいくつかの個体が採集されている。

3. 笠岡市大島正頭 1ex., VIII. 14, 1980 近藤光宏

海岸沿の神社にあるイヌビワ周辺を飛んでいたもので、かなり破損した個体である由。

4. 玉野市金甲山 1ex. 目撃, X. 10, 1980 河田敬司

山頂駐車場付近の路上をゆるやかに飛翔していたもの

### 引用文献

1) 倉敷昆虫同好会(1972) 岡山県の蝶. すずむし, 108: 43.

2) 難波通孝(1978) 岡山県のイシガケチョウについて. すずむし, 115: 1-12.

## 総社市でウスイロコノマチョウを採集

中村具見

ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* LINNAEUS は、今までに県下では、倉敷市<sup>1)</sup>津山市<sup>1)</sup>新見市<sup>2)</sup>からの採集例がある。今回、総社市においても採集することができたので参考までに報告しておく。

総社市見延 1♀, Sep. 9, 1979

水田に沿った雑木林の林縁より飛び出して、イネの葉上に静止したところを採集したもので、かなり汚損していた。

### 引用文献

1) 倉敷昆虫同好会(1972) 岡山県の蝶. すずむし, 108: 49.

2) 渡辺毅(1973) ウスイロコノマチョウを採集. すずむし, 110: 21.

## クロコノマチョウを倉敷で記録

近藤光宏(〒710 倉敷市中央2-16-14)

本誌第108号「岡山県の蝶」p. 49によれば、岡山県下の既知記録地は英田、津山、総社、岡山、倉敷の各都市となっており採集個体数も少ないようである。

筆者は、このほど1980年11月1日、勤務地である倉敷市玉島阿賀崎3-3-1で *Melanitis phedima* CRAMER クロコノマチョウ 1ex. を採集することができた。

採集個体は、左後翅の一部が破損している他は非常に新鮮であった。

発見した場所は2階から3階へ向う階段のおどり場の南面の窓である。おそらく中庭から南側の運動場へ出ようとして、あわれにも窓にさえぎられ、ばたばたあえいでいたものらしい。ここでは、これまでにもいろいろな昆虫を、時には思わぬ珍種をも手づかみしめたところである。

なお採集した個体については、近々倉敷昆虫館へ展示していただく予定。

## 赤谷渓谷(兵庫県)のカミキリムシ三種の記録

山地治

兵庫県宍粟郡赤西渓谷のカミキリムシについては、すでに幾つかの報告があるが、那須敏氏・渡辺昭彦氏及び筆者は当地域より未記録と思われる以下の種を採集しているので報告する。採集記録の発表を許された両氏に感謝する。

1. *Xylariopsis mimica* BATES クビジロカミキリ  
2 ex., 21. VI. 1980 渡辺採集; 1 ex., 5. VII. 1980 那須採集。  
いずれもツルウメモドキの叩網により得られた。又両日持ち帰ったツルウメモドキ枯枝より7~9月にかけて多数が羽化脱出した。(渡辺・山地)
2. *Sybra flavomaculata* BREUNING キボシチビカミキリ  
2. V. 1979 モミ枯枝採取(那須); 1♀, 8. VI. 1979 (羽化脱出)。
3. *Eupogoniopsis tenuicornis* (BATES) ホソヒゲケブカカミキリ  
1♂, 21. VI. 1980 山地採集。広葉樹枯枝の叩網により得られた。

## 赤磐郡塩木でケブカヒラタカミキリを採集

渡辺昭彦(〒701-01 倉敷市上東1050-1)

*Nothorhina punctata* (FABRICIUS) ケブカヒラタカミキリは県下では倉敷市栄町と総社市国分尼寺跡での記録があるが、筆者も以下の記録を報告する。

1 ex., (死個体) 19. VII. 1980 渡辺昭彦採集 アカマツ(生木)の樹皮中より。

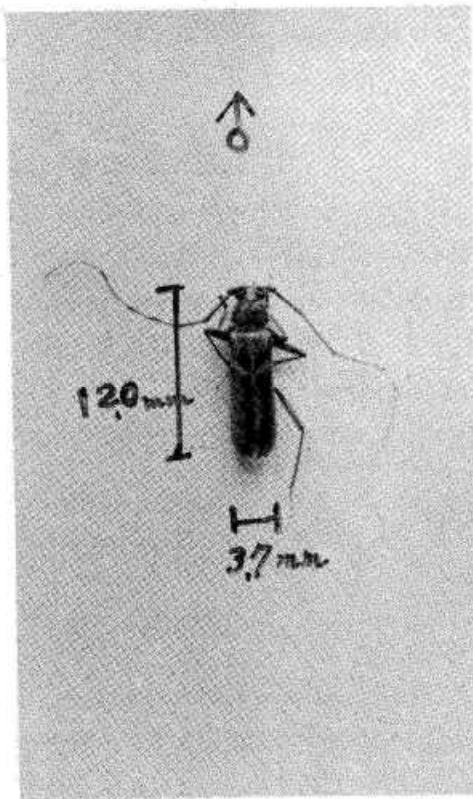
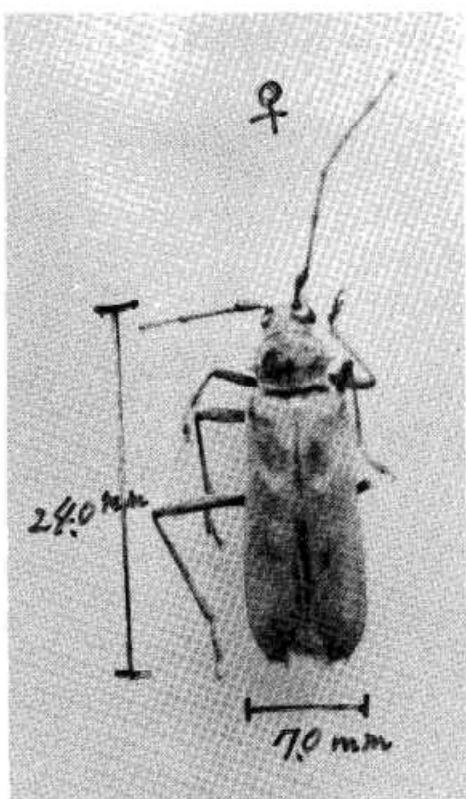
# アメリカ滞在中に得たカミキリムシ

三河内 房子

(〒704 岡山市西大寺中野960-15)

私は、2月3日、息子二人（当時小学校3年と幼稚園）を同伴し、ニューヨークに向かった。（主人が昨年より留学中）。ニューヨークでは一ヶ月余り滞在した。ちょうど住んでいたアパートがマンハッタン島のセントラルパークのすぐ近くにあり、暖い日には、よく散歩に出掛けたが、裸木の間をリスが飛びかうのみで、虫一匹見当らず、子供たちと「今が夏ならば虫の一つも探せるのに。」と嘆いた。何しろ2月のN.Y.は真冬のただ中で、マンハッタン島を吹き抜ける風は冷たく、手も足もちぎれるほど寒い日もあった。毎日氷点下が続いているのだから、昆虫採集なんて所詮無理なことは周知の上であったが…。」N.Y.滞在中にシカゴ、ボストン、ワシントンへも行ったが、雪雪で全く収穫なしであった。

3月3日より、N.Y.を発ち、テキサス州へ行くことになった（学会出席のため）。ここでは10日間余り滞在した。その間ヒューストンでは、NASAに行き、サターン五型、スペースシャトル、アポロなどを見学したが、これよりも、私にとり、よき思い出になったのは、



テキサス州西部の田舎町ビービルの知人宅を訪問した時のことである。この町では3月初めが真冬と言えども日中は30℃にもなり、日本の夏のたたずまいである。N.Y.では暖房、TX.では冷房、さすが広大なアメリカである。Beevilleはメキシコ国境にあるリオ・グランデ川に近い所で、緯度からいえば奄美大島あたりかと



滞在した知人宅の広い庭。大木はカシ

思う。気候は内陸性で昼夜の温度差は大きいが、とてもカラッとしていて日本のような湿気はあるでなく、しのぎよい。湿気が少ないのでアメリカ全土のようだが、この知人宅の広い庭で、長男岳(タカシ)が黒い蝶を捕えた(クロアゲハのよう)。本人も私も大喜びで、それを持参しようとした。ところが、知人宅の子供たちが、それを見ていて、猛反対だったのである。何やら英語で「かわいそだから逃してやれ。」という。お国柄が違うのか? はるばる異国でつかまえた宝物を無念の涙を飲んで、放した時の気持。今もくやしくて残念極まる。しかし幸運にも、その夜家の網戸に何やら虫がさばっているのを、長男、次男明が発見。今度こそ、私たち親子三人は、子供たちに見つからぬよう、それら二匹を持ち帰ることに成功した(帰国後、青野先生に調べていただいた結果、下記の如く判明)。

私たちは TX. 州を後にして、西海岸、ハワイと廻り、3月末日に帰国したが、その間は、採集もしそびれて後悔している。しかし子供たちは、アメリカ公立学校へも通い、よき経験もした。まだまだ旅行談はつきないが、これ位にしておこう。

#### *Knulliana cincta* (DRURY)

U. S. A. Texas 州, Beeville, 1♂1♀, Mar. 5, '78

*K. cincta* は、北米東部から南部に広く分布するほか、西部ではアリゾナ州、メキシコ北部にも生息している。出現期は3月から8月にわたり、幼虫はクヌギ、モミジ、ヤナギ類を加害する。

*Knulliana* 属の特徴としては、翅鞘にはっきりと縦隆が認められることや、翅鞘の末端に2本の突起があることなどがある。

カミキリムシ科、カミキリ亜科に含まれて日本のベニカミキリの仲間などに類似している。

(標本は筆者宅所蔵)

### 出版物分譲案内

岡山県の昆虫 (1978) B5, 146 pp. 会員800円, 一般1,000円, 送料250円

すずむし, パックナンバー

巻 号	各号分冊価格	巻 号	各号分冊価格
16 (2・3・4合併号)	1,000円 (円170円)	106号	600円 (円170円)
17 (1, 2)	500円 (円170円)	107号	400円 (円120円)
18 (1, 2)	500円 (円120円)	108~116号	1,000円 (円170円,
19 (1・2合併号)	1,000円 (円170円)		ただし110, 114号は円200円)

申込みは送料をそえて、前金（現金、振替、小為替）で本会事務所へ

### 倉敷昆虫同好会顧問

石原 保 先生

小泉 憲 治 先生

安江 安 宣 先生

佐藤 清 明 先生

杉山 章 平 先生

白水 隆 先生

重井 博 先生

### 倉敷昆虫同好会幹事

青野 孝昭・宇野 弘之・近藤 光宏・中村 具見  
難波 通孝・山地 治・脇本 浩・渡辺 昭彦

**医療法人**

**重井病院**

倉敷市幸町 〒223-655

## 第117号 目 次

黒田祐一：アカネキスジトラカミキリ <i>Cyrtoclytus monticallisus</i> KOMIYA の生態について.....	1
今坂正一：岡山県未記録のハムシ.....	3
難波通孝：岡山県のナガサキアゲハについて.....	5
尾塔順三：久米郡でのチョウ 5種の知見について.....	12
那須敏・山地治：高鉢山(鳥取県)のカミキリムシ追加報告Ⅳ.....	13
那須敏・山地治：ムツボシタマムシ 3種の記録.....	16
三河内房子：アメリカ滞在中に得たカミキリムシ.....	22

### おとしふみ (短報)

竹内幸夫：ヒゲナガヒメルリカミキリ臥牛山に産す.....	15
難波圭吾：ダイセンシジミを賀陽町で採集す.....	17
三熊良一：岡山県南部の注目すべき蝶 3種.....	18
三熊良一：蒜山でキバネセセリを採集.....	18
那須敏・三河内房子：岡山県南部のシンジュサンの記録.....	19
那須敏：オオキンカメムシの 2 記録.....	19
中村具見：イシガケチョウの分布資料.....	20
中村具見：総社市でウスイロコノマチョウを採集.....	20
近藤光宏：クロコノマチョウを倉敷で記録.....	21
山地治：赤西渓谷(兵庫県)のカミキリムシ三種の記録.....	21
渡辺昭彦：赤磐郡塩木でケブカヒラタカミキリを採集.....	21

---

す ず む し No. 117. December 31, 1980

### 倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町 (倉敷昆虫館内) 〒710

振替口座 岡山 6927

本部 (倉敷市中央2丁目20の1 岡山大学大原農業生物研究所内)

印刷所 サンコー印刷株式会社

岡山県総社市真壁871-2番地

---